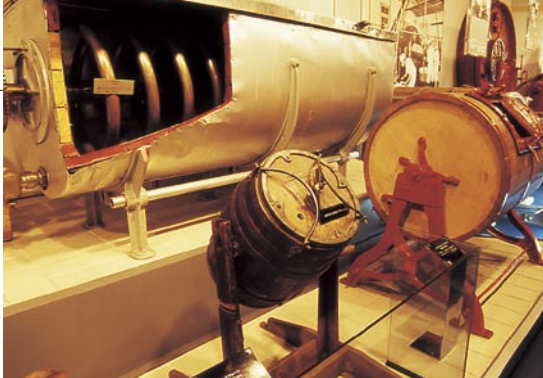




北海道鉄道技術館



雪印乳業史料館

博物館は2004(平成16)年12月にリニューアルオープンし、原料の麦芽やホップを手にとって香りをかいだり味わえるコーナーも新しくなった。また試飲コーナー(有料)では、ビールに関しての知識や情報などに耳を傾けながらビールを味わえる。

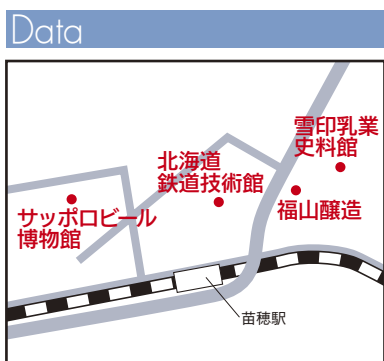
【雪印乳業史料館】

明治初期にクラーク博士らによって導入された大農法が一旦後退し、農業と酪農の混合農法になった大正時代、酪農の代表企業として雪印乳業はバター造りからスタートした。敷地内にある「雪印乳業史料館」は、1977(昭和52)年、雪印乳業の創業50周年を記念して設立されて以来350万人が入館している。館内には、バターやチーズなどの乳製品の製造過程や歴史を教える資料が展示されており、特にバターチャーレンと呼ばれる創業当時のバターづくりの機械や、粉乳用の濃縮機・乾燥機などの実物、昔のパンフレット、工場全体を1/10のサ

イズにした模型などが系統的に並べられ、長い歴史の中での改良の歩みが一目でわかる。隣のミルク工場の見学もでき、見学者への史料館自慢のアイスクリームのサービスも魅力的だ。

【北海道鉄道技術館】

明治政府の殖産興業政策に呼応して、北海道では小樽市手宮の鉄道工場(明治13年)をはじめ明治末期までに複数の鉄道車両工場が作られた。現在の苗穂工場は、1909(明治42)年に鉄道院北海道鉄道管理局札幌工場として設立されたもので、その規模は当時の日本製鋼所室蘭製作所に並び道内最大で、約50万㎡の広大な敷地に20棟のれんが建築等の重厚な大型建物が林立していた。現在の苗穂工場の敷地面積は約20万㎡と半減しているが、約1000台の工作機械が稼働している。「北海道鉄道技術館」は当時、倉庫として使っていた赤れんが造りの建物を利用して、1987(昭和62)年に開館した。北海道の国鉄の歴史や札幌工場の様子を語る実物資料が展示公開されて



- お問い合わせ先
- サッポロビール博物館 Tel. 011-731-4368
開館：5月～9月 9:00～17:30
(入館17:00 まで) / 11月～4月
9:00～16:30 (入館16:00まで)
- 休館：12月29日～1月5日
入館料：無料 (試飲は有料)
- 雪印乳業史料館 Tel. 011-704-2329
開館：9:00～15:30
休館：土・日・祝日 (7、8月は無休)
入館料：無料
※前日までの予約が必要
- 北海道鉄道技術館 Tel. 011-721-6624
開館：毎月第2、第4土曜日
13:30-16:00
入館料：無料

いる。また、館内にはリゾート列車として人気を博した「アルファコンチネンタルエクスプレス」が展示されているほか、苗穂工場内には「C62」などの歴史的車両が静態保存されている。毎年10月の鉄道旬間には技術館に加え工場内部も一般公開され、多数の市民や鉄道ファンに親しまれている。

産業遺産とまちづくり

苗穂地区の近隣住民で作る苗穂駅周辺まちづくり協議会では、まちの工場・記念館群が北海道遺産に選定されたことを契機に、地域と企業が一体となって、北海道産業史を知る上で重要なこの地域をよく知ってもらうと意欲的だ。

協議会内のニュース部会では、まちの壁新聞ともいえるべき「はばたく苗穂」で選定を伝え、今後はツアーなども企画する方向で検討している。

もともとこの協議会は「なえぼ」の歴史や見所、イベントなどを一覧にした「散策マップ」を作成するなど、札幌のまちづくり団体の中でも高い行動力を持っていると評判で、これからの活動が注目されている。